

令和 6 年 6 月 5 日現在

機関番号：34316

研究種目：若手研究

研究期間：2020～2023

課題番号：20K20071

研究課題名（和文）ブラジルにおける社会課題解決と地域経済発展に関する研究

研究課題名（英文）Research on Social Problem Solving and Local Economic Development in Brazil

研究代表者

河合 沙織（KAWAI, Saori）

龍谷大学・国際学部・准教授

研究者番号：60734499

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、ブラジルの地域経済発展と社会課題について、特定地域が抱える社会課題をグローバルイシューと関連付けて整理し、解決策の模索に必要な議論を明らかにすることを目的とした。本研究を構成する3つの柱のうち[1]マクロレベルでの政治経済動向について、論考を2本（査読付き論文1本）[2]グローバル化に伴う国内経済地図の変化について、論考を3本、研究報告1回、[3]社会課題解決に資するプロジェクトについて、論考2本（査読付き論文1本）、研究報告7回を行った。コロナ禍を受け渡航中止要請期間があり当初の研究計画を修正する必要性が生じたが、コロナ禍による社会課題の変容を踏まえた研究が可能となった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の研究成果は、国内の政治的分極化がマクロ経済運営を困難にすることを示し、ブラジルを含むラテンアメリカ諸国が抱える不平等な所得分配、深刻な階級対立、政治的不安定性の改善を抜きにして制度・政策改革を行うことの限界を指摘した。社会課題解決に資するプロジェクトに関しては、コロナ禍のような未曾有の危機に直面したブラジルにおいて、市場や政府の不完全性を補完する役割を果たした機動的な市民セクターが存在したことを明らかにした。また、保健医療分野でのODAに関する研究活動を通して、「グローバル・サウス」にアプローチする際に留意すべき点を「南側の視点」で検討する研究の必要性を示唆した。

研究成果の概要（英文）：This study aims to elucidate the discussions necessary for seeking solutions to the social problems faced by specific regions in Brazil by relating these issues to global challenges and examining their impact on regional economic development.

The study is structured around three main pillars: 1. We are analyzing the political and economic trends at the macro level, and two papers were produced, one of which was peer-reviewed. 2. We are examining globalization's changes in the domestic economic landscape, which has resulted in three papers and one conference presentation. 3. Investigating projects that contribute to solving social issues, leading to two papers (one peer-reviewed) and seven conference presentations and other related activities.

Despite the need to revise the initial research plan due to travel restrictions during the COVID-19 pandemic, the study addressed the evolving social issues exacerbated by the pandemic.

研究分野：地域研究

キーワード：ブラジル 社会課題 地域経済発展 国際協力

様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

今世紀の初めにグローバル規模で拡大した資本主義経済は、2014 年前後を境に、新興国の牽引力を失い、低成長の段階に入った。低成長基調は、2020 年代においても相当期間にわたり続くと思われている。そうした状況は、新興国を含む発展途上諸国に対し、経済の成長や拡大を前提とした諸政策の見直しを強いるだけでなく、一定の所得水準に達した後にそれ以上の社会経済発展が進まない「中所得国の罨」にみられるように、深刻な格差や貧困を抱える発展途上諸国の構造的な課題をあらためて浮き彫りにした。グローバル化のもとで相互依存が拡大する中で、経済が不安定化し社会的な亀裂や対立が深まる要因は国境を越えて捉えられなければならないが、2010 年頃までの高度成長を支えた政治がさまざまなレベルで大きく変動してきている。

2. 研究の目的

地方創生は先進国に限った問題ではなく、都市化が進む発展途上国においても、主要都市のみならず地方における地域経済の発展は長期的な成長を実現する上で不可欠であり、それを実現する手段は未だ模索過程にある。グローバル化のもとで相互依存が拡大する中で、地域経済の動向は、国内外の経済状況や政治情勢など外部環境の影響を受けやすくなっている。本研究では、格差の縮小をともなう経済成長を遂げた 2000 年代のブラジルと、経済の不安定化ならびに社会的な亀裂や対立が目立った 2010 年代に注目し、地域経済の発展パターンについて質的かつ量的な検討を行う。本研究は、マクロレベルでの政治経済動向、グローバル化にともなう国内経済地図の変化、社会課題解決に資するプロジェクトに着目し、地域経済発展を促すまたは阻害する条件ならびに制度的・構造的課題を明らかにすることで、都市化が進む発展途上諸地域の長期的な開発研究に新たな局面を開くことを目指すものである。

3. 研究の方法

先進国・途上国に共通する課題として重要性が高まる地域経済発展に関して、本研究は、地域研究的アプローチと社会科学的手法を統合させ、地域経済発展を促すまたは阻害する条件ならびに制度的・構造的課題を明らかにすることを目的とする。とりわけ本研究では、ブラジルを対象に地域経済発展に関して、マクロレベルでの政治経済動向、グローバル化にともなう国内経済地図の変化、社会課題解決に資するプロジェクトに焦点をあてた分析を行う。

4. 研究成果

(1) マクロレベルでの政治経済動向

過去 20 年間のブラジル経済を振り返り、経済分野において進められてきた改革の進捗について論じた論文を発表した(河合, 2023)。開発主義的な経済モデルへの回帰を目指すルーラ政権にとって、政策を実行するうえでの課題はどこにあるのかについて、外部環境はもとより、史上最も保守化しているといわれる議会、分極化した世論との関係など、政治的モメンタムの変化がマクロ経済政策運営の制約となることを明らかにした。

研究計画策定時には想定していなかった COVID-19 パンデミックを受け、河合(2021)では、大統領や連邦政府と州政府・ムニシピオの間でのガバナンスの機能不全が政治的混乱を招いたこと、制度や機構、組織などにより形づくられる、政治的・経済的・社会的な「しくみ」の脆弱さが露呈したことを論じた。

河合(2024)では、敵対する政党や者への反感、拒絶によって特定の政党や候補者を支持し忠誠を誓う否定的党派制(negative partisanship)と、異なる政治的意見やグループ間で敵意や不信、偏見を抱き交流を拒む感情的分極化(affective polarization)を通して深刻な分裂状態にあるブラ

ジルの状況が、中長期的な視点に立ったマクロ経済運営を困難にすることを指摘した。世界銀行により開発された「世界ガバナンス指標」を用いて、もともと脆弱な「制度」が、政治的分極化の深化に伴いさらに劣化した可能性があることを示唆した。

(2) グローバル化にともなう国内経済地図の変化

コロナ禍で海外渡航中止要請が出された期間には、北東部における大規模な熱帯農業植民地の展開について歴史的に考察し、砂糖産業の成立とブラジル社会の萌芽に関して、サトウキビプランテーションの拡大がもたらした社会経済構造の変化、寡頭支配の確立と家父長制家族の形成を中心に論じた(河合, 2022a)。また、農産物や鉱物といったコモディティが経済活動の分布に及ぼした先例として、17世紀末以降に現在のミナスジェライス州で起こったゴールドラッシュがもたらした国内経済地図の変化と植民地統治体系への影響に関する論考をまとめた(河合, 2022b)。

ブラジル国内の経済地図の変化をリージョナルな動向と比較して議論することを目的として、ネットワークモデルを用いたラテンアメリカ諸国の国際貿易に関する実証分析を報告した(河合・コヘイア, 2022)。グローバル化の進展が本格化した1996年から2019年を対象とした分析結果より、ラテンアメリカ諸国の国際貿易へのアクセスは2つのタイプに分類できることを明らかにした。チリ、メキシコ、ペルーなど地域貿易協定に積極的な国々では貿易ネットワークのクラスター化が確認された一方で、ブラジルのクラスター係数は低く推計され、多様な相手と「閉じられていない」形で国際貿易を行っている可能性を指摘した。ただし、生産性が低い状況でこのような貿易パターンをとることは、新たな市場へのアクセスを困難にするばかりでなく、他国との競争を通じて、既存市場でのシェアを失うことにもつながるという懸念を提示した。

(3) 社会課題解決に資するプロジェクト

本研究では、基礎自治体やマイクロリージョンなど州よりも小さな地域レベルにおいて展開される社会課題解決プロジェクトを抽出し、地域経済発展を促すまたは阻害する条件ならびに制度的・構造的課題と結びつけて検討することを目指した。外部のアクターとして「国際協力」に着目し、ブラジル北東部で行われたプロジェクトの事例研究に向け、背後の潮流を明らかにする研究報告を重ねた(Campos & Kawai, 2020; Campos & Kawai, 2021; Kawai 2022; Campos & Kawai, 2023)。Campos & Kawai (2023)では、1990年から2020年までの開発途上国の保健セクターに対する日本の政府開発援助(ODA)政策の全体的な傾向と、COVID-19後の将来の見通しを明らかにした。国際協力と対外援助、保健への権利、世界の保健システム改革に関する最近の議論を組み合わせ、日本の開発途上国における保健分野へのODAを調査・分析し、これらの研究に追加的な視点を提供した。

コロナ禍前後の動向を踏まえ、OECDのデータベースを用いて他の主要国と比較することで日本の保健医療分野に向けたODAの特徴を明らかにした研究報告を行った(Kawai, 2024a)。くわえて、昨今の日本の「開発協力」に関するナラティブは、開発途上国とりわけ「グローバル・サウス」と括ってアプローチする際に留意が必要となることを指摘し、ブラジル主要大学での研究報告を通じて議論を深めてきた(Kawai, 2023; Kawai, 2024b)。

地域経済発展と社会課題解決に関する事例研究として、リオデジャネイロで社会連帯経済を実施するNGOに着目し、コロナ禍のような未曾有の危機に直面した際に、市場や政府の不完全性を補完する役割を果たした機動的な市民セクターが存在したことを明らかにした。同団体では、パンデミック以前からの幅広い取り組みと経験、運営組織への多様なアクターの関与が、コロナ禍の制約のもとでの機動的かつ効果的な活動を可能にしたことを指摘した(河合, 近刊)。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 2件/うち国際共著 1件/うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 Pires de Campos Rodrigo, Kawai Saori	4. 巻 X
2. 論文標題 Japan's ODA to Developing Countries in the Health Sector: Overall Trend and Future Prospects	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Hamaguchi, N., Ramos D. eds. "Brazil Japan Cooperation: From Complementarity to Shared Value"	6. 最初と最後の頁 43～83
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1007/978-981-19-4029-3_3	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する
1. 著者名 河合 沙織	4. 巻 40
2. 論文標題 ブラジルにおけるマクロ経済政策の動向と第3次ルーラ政権の課題	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 ラテンアメリカ・レポート	6. 最初と最後の頁 26～40
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.24765/latinamericareport.40.1_26	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 河合 沙織	4. 巻 1445
2. 論文標題 「劣化した制度」の再強化 社会分野における挑戦	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 ラテンアメリカ時報	6. 最初と最後の頁 13-15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 河合 沙織	4. 巻 1663
2. 論文標題 コロナ禍で膨れ上がる格差のコスト	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 ブラジル特報	6. 最初と最後の頁 5
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 河合 沙織	4. 巻 26
2. 論文標題 コロナ禍における社会連帯経済の挑戦 -リオデジャネイロ州Asplande の事例-	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 国際社会文化研究所紀要	6. 最初と最後の頁 61-79
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

[学会発表] 計8件(うち招待講演 0件/うち国際学会 7件)

1. 発表者名 Pires de Campos Rodrigo, Kawai Saori
2. 発表標題 Japan's ODA to Developing Countries in the Health Sector: Overall Trend and Future Prospects
3. 学会等名 JICA Chair Special Lecture "BRAZIL-JAPAN COOPERATION: FROM COMPLEMENTARITY TO SHARED VALUE" BOOK LAUNCH SEMINAR (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 河合沙織, コヘイア・レオナルド
2. 発表標題 ネットワークモデルを用いたラテンアメリカ諸国の国際貿易に関する分析
3. 学会等名 ラテン・アメリカ政経学会 第59回 全国大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Rodrigo Pires de CAMPOS, Saori KAWAI
2. 発表標題 JICA and Global Health: Challenges and Prospects
3. 学会等名 Webinars CAPES-JSPS, "Partnership for a Change: Structuring Brazil-Japan Cooperation" (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Saori KAWAI
2. 発表標題 Japan's ODA and Global Health: Challenges and Prospects
3. 学会等名 LASA/ASIA 2022 Rethinking Trans-Pacific Ties: Asia and Latin America (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Rodrigo Pires de CAMPOS, Saori KAWAI
2. 発表標題 A JICA e a saude global: Desafios e perspectivas
3. 学会等名 WEBINARS PROJETO CAPES - JSPS PARCERIA PARA MUDANCAS: RUMO A ESTRUTURACAO DA COOPERACAO BRASIL-JAPAO (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Saori KAWAI
2. 発表標題 Principais tendencias da AOD do Japao em Saude no Mundo: 1990-2022
3. 学会等名 V CONFERENCIA INTERNACIONAL SOBRE HUMANIZACAO DO PARTO E NASCIMENTO (国際学会)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 Saori KAWAI
2. 発表標題 Ajuda Oficial ao Desenvolvimento (ODA) do Japao aos Países em Desenvolvimento: Reflexoes sobre a Cooperacao na Politica Japonesa
3. 学会等名 Ciclo de debates Instituto de Economia (IE) da UFRJ (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Saori KAWAI
2. 発表標題 Ajuda Oficial ao Desenvolvimento (ODA) do Japao: Tendencias e Reflexoes na Area da Saude
3. 学会等名 Lab.Asia, Departamento de Relacoes Internacionais (DRI), Programa de Pos-Graduacao em Relacoes Internacionais (PPGRI) da Universidade do Estado do Rio de Janeiro (UERJ) (国際学会)
4. 発表年 2024年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 伊藤 秋仁、岸和田 仁	4. 発行年 2022年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 404
3. 書名 ブラジルの歴史を知るための50章	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関		
ブラジル	Universidade de Brasilia		